

= 明日へ =

今期最後のメッセージとなった。仕上げは、パーッと明るい話題満載に思っていたが、現状を見据え、来期への言葉を残しておかなければならない。

私たちは、2016年の第24回参議院選挙総括を受け、「組織力の再生戦略」を整理・確認し、基幹労連のリスタートを期して動き始めた。そして、すぐに実行に移す課題や、引き続き検討を要するものを整理し、加盟組合・構成組織、県本部・県センターの皆さんとの連携のもと組織力量の強化に努めてきた。

未だ、それは道半ばではあるが、組織力を磨き・蓄え、研鑽してきた2年間との思いのもと、7月の第25回参議院議員選挙に臨んだ。しかし、背中を押す風は吹かず、力量発揮に至らぬまま厳しい結果となった。またしても、懸命に取り組んでいただいた仲間の皆さんに悔しい思いをさせることとなった。そして、JAM・基幹労連の置かれた厳しい状況を承知の上で、この戦いに臨んでいただいた田中ひさや氏には敬意とともに詫びねばならない。

あらためて、組織間、役員間、そして組合員の皆さんとの顔合わせ・心合わせ; Face to faceの実践を通年的な運動として確実に積み上げ、具体的な取り組みへとつなげる道筋をつくっていかねばならない。言うほどに簡単なことではないが、いかなる環境にあらうとも働く者・生活者の幸せ追求を旨とする労働運動は、立ち止まることは許されない。前に、前に進んでいかなくてはならない。各組織の役員と仲間の皆さんに、これまでの取り組みに対する感謝とともに、課題の克服に向けた理解と協力をあらためてお願いしておきたい。

ところで、今期をもって退任される役員の皆さんもいると伺った。「出会いは人生を豊かにし、別れは人生を深くする」、労働運動を通じて多くの仲間と出会い、語り、行動した一つひとつの経験が大きな糧となって次のステージでの活躍につながることを願ってやまない。

出会いといえば、神様がくれた一番の宝物は我が子のはず。ところが昨今、目を覆いたくなるような子供への虐待事件が起きている。命の尊さとも相まってつらいことである。そこで、多分、聞いたことはないだろうが、1980年の4月～5月にかけてNHKの「みんなのうた」で放映された「石原裕次郎さんと太田裕之さん」が親子役で歌った『パパとあるこう』という歌を紹介しよう。その歌詞は…

「空行く雲がお前に見えた 五月の町はバラの香りさ そうさお前が生まれたあの日
どうってこともないこの町が 地球で一番すばらしくなった 泣き虫のお前の涙を吸った
この町はおれたちの町 さぁパパとあるこう
ラ・ラ・ララ・ラ・ラ・ララ・ラララララ さぁパパとあるこう 手をつないで」

折角だから、2番も、3番も…

「愛そのものさお前の笑顔 淋しい人に分けてあげよう そうさお前が笑ってこける
どうってこともない昼さがり 悲しみなんかには負ける気はしない…
いつの日かお前も大人になって この町で恋をしてくれ さぁパパとあるこう
ラ・ラ・ララ・ラ・ラ・ララ・ラララララ さぁパパとあるこう 風さわやか」
「花をみて お前がきれいと言った この町で幸せになれ さぁパパとあるこう
ラ・ラ・ララ・ラ・ラ・ララ・ラララララ さぁパパとあるこう 夢みながら」

これからも人と人との出会いに感謝し、多くの課題への出合いを前向きに受け止め、仲間とともに歩みを進めていきたい。暑い日が続くが、体調管理に留意され、好きな歌を口ずさみながら、お子さんやご夫婦で久しぶりに手をつないで歩いてみてはいかがか。きっと、安全と健康が幸せの種であることを実感されることだろう。

ご安全に

2019年8月1日
日本基幹産業労働組合連合会
中央執行委員長 神田 健一